令和7年度 日本認定機関協議会(JAC)セミナー

テーマ:「認定、それは中小企業の発展に力を与える」

講演3: JCSS質量分野の普及と変遷

3 時 : 2025年 10月 3日(金)

会場(独)製品評価技術基盤機構大阪事業所(大阪市住之江区)

株式会社 村上衡器製作所

代表取締役 村上 昇

(一般計量士・IAJapan 審查員)

本日の講演

大阪の中小企業である弊社が JCSS校正証明書 発行業務を通じ、

顧客企業様と共に品質管理・計量管理の分野で どの様に発展してきたか、をご紹介します。

JCSS認定取得の意義

- 弊社の概要
- キログラムの定義改定
- 分銅製造とトレーサビリティ

校正証明書発行業務の実態

- 分銅校正と品質管理
- 証明書発行件数の変遷

顧客企業との共創と今後の展望

- 顧客ニーズへの対応
- 顧客企業との連携











企業情報

商号:株式会社 村上衡器製作所

英文名: Murakami Koki Co., Ltd.

創業:1906年(明治39年)

設立:1948年(昭和23年)

資本金:1,000万円

所在地:大阪府大阪市旭区赤川2-10-31

従業員数:33名(2025年10月現在)

企業理念: 株式会社 村上衡器製作所は

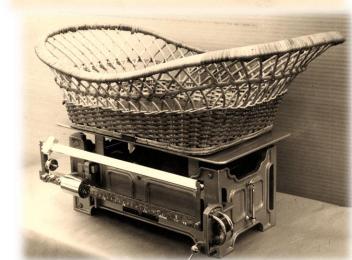
全後業員の物心両面の幸福を追求し、

"規格を遵守する技術力"を誇りとして、

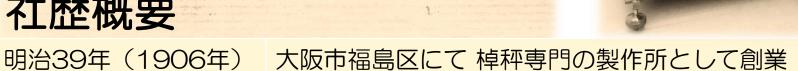
正確な質量計測に貢献します。

昭和20~30年代の 弊社製 機械式はかり









昭和19年(1944年) 戦時中の政府命令により、大阪市旭区へ移転

株式会社として法人登記

平成 8年(1996年) JCSS分銅校正事業 開始【国内2番目】

平成12年(2000年) ISO9001の認定取得

昭和23年(1948年)

平成15年(2003年) JCSSはかり校正事業 開始【国内初】

平成21年(2009年) JISマーク表示制度 [分銅] の認証取得 【国内初】

平成28年(2016年) 『大阪ものづくり優良企業賞2016』認定受賞

平成30年(2018年) サブミリグラム領域でのJCSS分銅校正開始【国内初】

主な事業







天びん製造

- 機械式上皿天びん
- 自動上皿天びん

小学校理科教育用 上皿天びんの国内生産 シェア 独占

分銅製造

- JIS規格 標準分銅
- 基準分銅
- 特殊分銅

材料から一貫生産できる 国内分銅メーカーとして 最大手

質量校正•検査

- JCSS分銅校正
- JCSSはかり校正
- ・一般はかり検査

JCSS制度の創成期からの 認定事業者 国内で高いシェアを維持

「キログラム」定義改定

質量標準トレーサビリティ体系図

定義改定後





²⁸Si単結晶球体





特定標準器 ≪ 標準分銅群 ≫

(旧)日本国キログラム原器を含む 1 mg ~ 20 kgの分銅群



(国研) 産業技術総合研究所 NMJ





特定二次標準器



常用参照標準









分銅ではかりを管理する 一般ユーザー



JCSS認定事業者

「分銅」の役割

分銅の国際勧告 『OIML R111-1』 より

①はかりの検査時の標準



はかりの仕様に応じた 「分銅」で検査し、はかりを管理する。

② 下位の精度等級分銅の検査や校正時の標準



精度等級の高い「分銅」を 参照分銅として分銅を校正する。

③はかりと同時に使用



被測定物と つりあう「分銅」の量により質量を知る。

JIS B7609:2008「分銅」の概要

質量の公称値が 1mgから5 OOOkg までの分銅について、 9つの精度等級(E1,E2,F1,F2,M1,M1-2,M2, M2-3, M3級)に分けて規定されている。

- 最大許容誤差
- 形状
- 構造
- 材質

- 磁性
- 密度
- ・ 表面粗さ条件
- 調整
- 表記
- 格納容器

〔規定〕

- 試験方法
- 校正方法

〔参考〕

- 形状及び寸法
- 統計的管理



識別記号を合番号として、 規格適合ラベルによる 適合性の表明が行われる。



F1級 2kg 個数:1 識別記号 01 S/N:1400001

MURAKAMI KOKI CO., LTD.

最大許容誤差 Maximum Permissible Error $\pm \delta m$

									(mg)
公称值	E₁級	E ₂ 級	F₁級	F ₂ 級	M₁級	M ₁₋₂ 級	M ₂ 級	M ₂₋₃ 級	M ₃ 級
5 000 kg			25 000	80 000	250 000	500 000	800 000	1 600 000	2 500 000
2 000 kg			10 000	30 000	100 000	200 000	300 000	600 000	1 000 000
1 000 kg		1 600	5 000	16 000	50 000	100 000	50 000	300 000	500 000
500 kg		800	2 500	8 000	25 000	50 000	80 000	160 000	250 000
200 kg		300	1 000	3 000	10 000	20 000	30 000	60 000	100 000
100 kg		160	500	1 600	5 000	10 000	16 000	30 000	50 000
50 kg	25	80	250	800	2 500	5 000	8 000	16 000	25 000
20 kg	10	30	100	300	1 000		3 000		10 000
10 kg	5.0	16	50	160	500		1 600		5 000
5 kg	2.5	8.0	25	80	250		800		2 500
2 kg	1.0	3.0	10	30	100		300		1 000
1 kg	0.5	1.6	5.0	16	50		160		500
500 g	0.25	8.0	2.5	8.0	25		80		250
200 g	0.10	0.3	1.0	3.0	10		30		100
100 g	0.05	0.16	0.5	1.6	5.0		16.0		50
50 g	0.03	0.10	0.3	1.0	3.0		10.0		30
20 g	0.025	0.08	0.25	0.8	2.5		8.0		25
10 g	0.020	0.06	0.2	0.6	2.0		6.0		20
5 g	0.016	0.05	0.16	0.5	1.6		5.0		16
2 g	0.012	0.04	0.12	0.4	1.2		4.0		12
1 g	0.010	0.03	0.10	0.3	1.0		3.0		10
500 mg	0.008	0.025	0.08	0.25	0.8		2.5		
200 mg	0.006	0.020	0.06	0.2	0.6		2.0		
100 mg	0.005	0.016	0.05	0.16	0.5		1.6		
50 mg	0.004	0.012	0.04	0.12	0.4				
20 mg	0.003	0.010	0.03	0.10	0.3				
10 mg	0.003	0.008	0.025	0.08	0.25				
5 mg	0.003	0.006	0.020	0.06	0.20				
2 mg	0.003	0.006	0.020	0.06	0.20				
1 mg	0.003	0.006	0.020	0.06	0.20				

最大磁気分極 (磁化)

					単位 μT
等級	E₁級	E ₂ 級	F₁級	 M ₂₋₃ 級	M ₃ 級
最大磁気分極	2.5	8	25	 1 600	2 500

最大磁化率

公称值	E₁級	E ₂ 級	F ₁ 級	F ₂ 級
$m_0 \le 1 g$	0.25	0.9	10	0
$2 g \leq m_0 \leq 10 g$	0.06	0.18	0.7	4
20 g ≤ m ₀	0.02	0.07	0.2	0.8

密度の許容範囲

					単位:	$\times 10^3 \mathrm{kg/m}^3$
公称值	E₁級	E ₂ 級	F₁級		M ₂ 級	M ₂₋₃ 級
$100 \text{ g} \leq \text{m}_0$	7.934~8.067	7.81~8.21	7.39~8.73	•••	≧ 2.3	≧ 1.5
50 g	7.92~8.08	7.74~8.28	7.27~8.89		_	_
• • •	•••	•••	•••		•••	•••
20 mg	≧ 2.3	_	_	•••		_

表面粗さの上限値

				単位 μ m
表面粗さ	E ₁ 級	E ₂ 級	F ₁ 級	F ₂ 級
Rz	0.5	1	2	5
Ra	0.1	0.2	0.4	1

製造の中のトレーサビリティ

分銅の協定質量に対する<u>拡張不確かさ U</u> (包含係数は *k*=2) は 最大許容誤差 <u>8m</u>の1/3以下でなければならない。

$$U \leq 1/3 \, \delta m$$

分銅の<u>協定質量 m</u>。は、<u>公称値m</u>。に対する隔たりが<u>最大許容誤差 δm</u>と <u>拡張不確かさ U</u> との差より大きくなく、以下の式の範囲になければならない。

$$m_0 - (\delta m - U) \le m_c \le m_0 + (\delta m - U)$$

JIS B7609:2008「分銅」より抜粋

協定質量を拡張不確かさを伴って計測(校正)して、 この関係式を満たしている事が確認できれば、

JIS B7609「分銅」に基づく

質量に関する適合性評価が可能になる。

弊社での製造/検査工程

製造工程	検査項目	検査対象	検査基準
① 材料 受入検査	磁化率 密度	試験片 ミルシート	JIS規格
② 旋盤加工	外形寸法 ネジ部 外観	抜取り 抜取り 全数	社内作業標準規定
③ 表面研磨	質量 表面粗さ	全数	社内作業標準規定 社内標準限度見本
④ 表記	外観	全数	社内標準限度見本
⑤ 質量調整	質量	全数	JIS規格のMPEの -1/3 ~ +1/2
⑥ 識別マーキング/ 質量検査	質量	全数	JIS規格
⑦ 特性評価	磁化 磁化率 表面粗さ	全数	JIS規格

5質量調整

電子天びんの指示値を直読・簡易的な等量比較校正

半完成品状態で保管

受注後に製品化

完成品在庫 を持たない

⑥識別マーキング/質量検査

国家標準とトレーサブルな ワーキングスタンダード分銅を用いた 等量比較校正

> 製造の中の トレーサビリティ

F 級分銅:ABBA法 • 1 反復 M級分銅:AB···BA法 • 1 反復

MPE: 最大許容誤差 (Maximum Permissible Error)

本日の講演

大阪の中小企業である弊社が JCSS校正証明書 発行業務を通じ、

顧客企業様と共に品質管理・計量管理の分野で どの様に発展してきたか、をご紹介します。

JCSS認定取得の意義

- 弊社の概要
- キログラムの定義改定
- 分銅製造とトレーサビリティ

校正証明書発行業務の実態

- 分銅校正と品質管理
- 証明書発行件数の変遷

顧客企業との共創と今後の展望

- 顧客ニーズへの対応
- 顧客企業との連携

なぜ精密測定機器には検査校正が必要なのか?

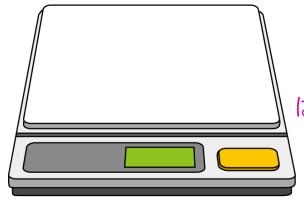


質量の測定機器(はかり)の例



質量の計量標準(分銅)

日常点検・定期検査によるはかりの計量管理が必要。



精密測定機器(はかり)

はかりは質量の計測器であり、はかりの指示値は絶対ではない。

- ▶ 使用中変化 (経年変化)
- ▶ 表示設定ミス (単位など)
- ➤ 故障

ひょう量 220g/目量1mg の はかりに 公称値200gの計量標準分銅を載せて 定期検査を実施した



はかりのスパン調整が必要! (出力範囲の最適化)

「分銅校正」と品質管理

使用頻度や使用環境により 程度は異なりますが…



分銅も 経年変化(質量変化)を 起こします。

自社内での分銅やはかり管理の際、 質量の標準として使用される。

自社で管理する はかりでは 分銅の質量校正はできない。





返却

前回校正以降に発生した質量変化を確認する。 継続して使用しても問題ないかを検証する。









参照分銅

被校正分銅



精度等級が上位の参照分銅と 質量比較することで校正される。

JCSS校正証明書の発行



【記載事項】

- ▶ 不確かさ付きの校正結果
- ▶ 国家質量標準にトレーサブルである
- 国際的に相互受入可能である



- ◆ 計量法に基づくトレーサビリティ制度
- ◆ 国家計量標準供給制度と校正事業者登録制度から構成され、 (独) 製品評価技術基盤機構(NITE) 認定センター(IAJapan) が ISO/IEC17025に基づく審査を行い、校正事業者を登録する。
 - ▶ 平成5年 (1993年) 11月 計量法に基づく校正事業者
 設定制度として開始
 - ▶ 平成17年(2005年) 7月 校正事業者登録制度に変更

登録事業者の事業区分は以下の 25区分

- 1) 長さ
- 2) 質量
- 3) 時間 周波数 •回転速度
- 4) 温度
- 5) 光

6) 角度

- 11) 電気(直流・低周波)
- 16) 圧力

21) 濃度 [標準物質]

7) 体積

- 12) 電気(高周波) 電磁界
- 17) 粘度

22) 放射線・放射能

8)速さ

13) 密度 • 屈折率

18) 熱量 [標準物質]

19) 熱伝導率

23) 硬さ

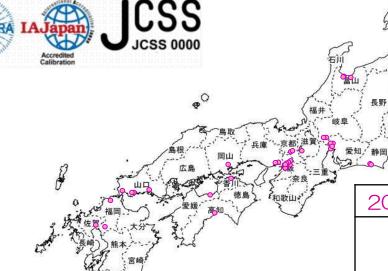
- 9) 流量・流速 14) 力
- O) 振動加速度 15) トルク

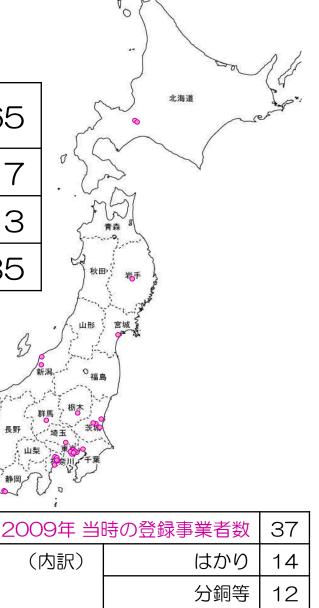
- 20) 音響 超音波
- 25) 湿度

24) 衝擊值



JCSS質量分	65	
(内訳)	はかり	17
	分銅等	13
	はかり・分銅等	35







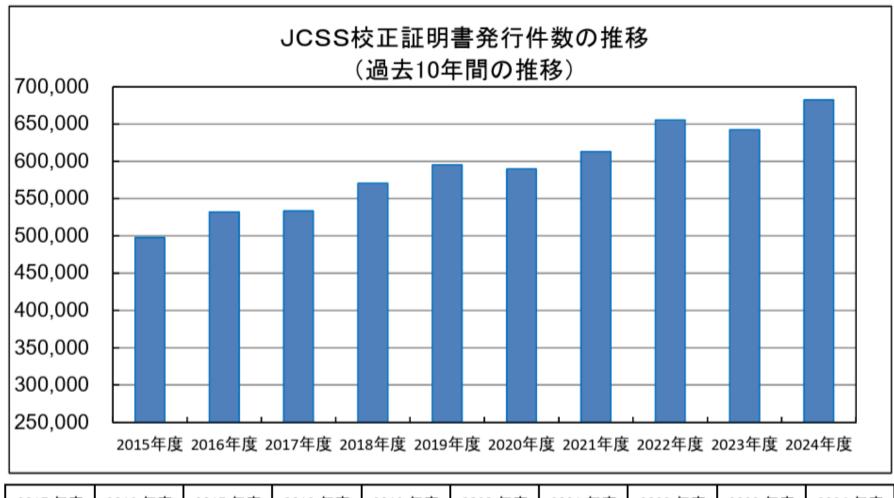
https://www.nite.go.jp/iajapan/index.html





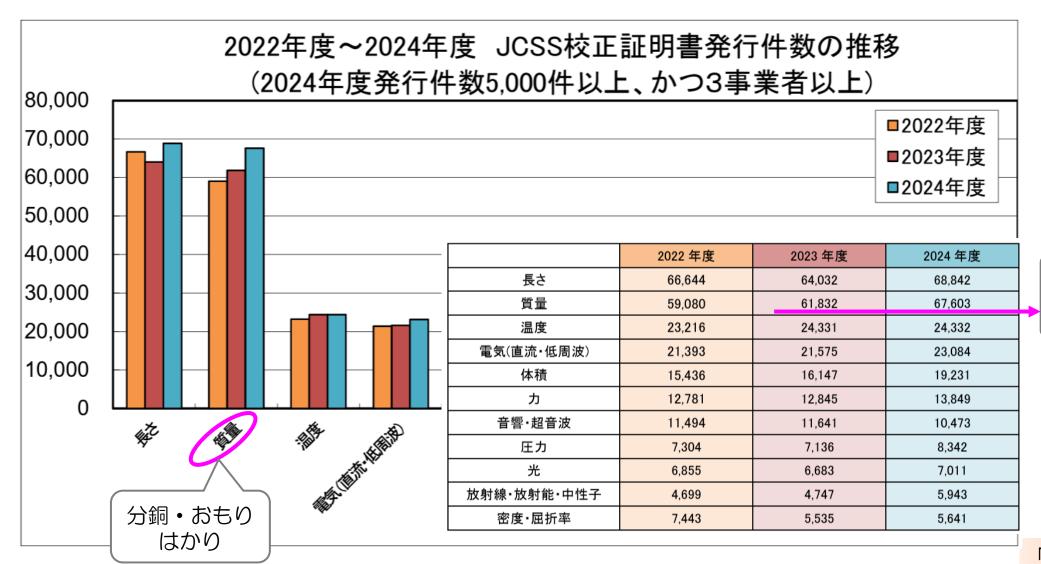
- > JCSS登録·認定事業者検索
- ➤ JCSS活用事例の紹介
- ▶ 計量トレーサビリティとは

はかり・分銅等



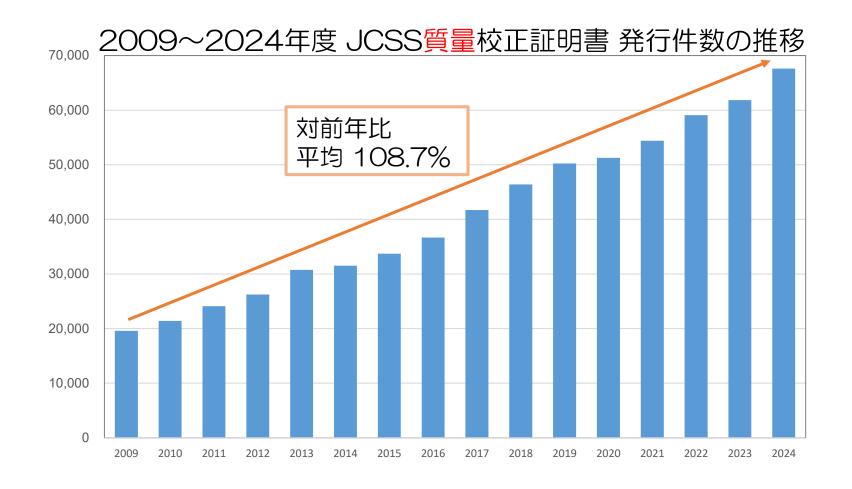
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
497,761	532,226	533,550	570,408	595,133	589,795	612,848	655,257	642,372	682,399

NITE 公開資料より



対前年比 109.3 %

NITE 公開資料より



NITE 公開資料を基に作成

JCSS校正証明書(分銅)

分銅の情報

- 品名
- 識別記号
- 質量範囲, 数量
- 製造者

依頼者情報

- 依頼者名
- 住所
- 校正実施場所

校正の情報

- 校正方法
- 標準器
- 校正年月日
- 発行責任者

校正証明書の適用範囲

- 国家標準にトレーサブル
- MRA(相互承認) により 国際的に相互受入れ可能

様式 校1-1 総数5頁の1頁



証明書番号 0000000



校正証明書

依頼者名

依頼者住所

校正実施場所

株式会社 村上衡器製作所 大阪市旭区赤川2丁目10番31号

品名

株式会社 村上衡器製作所 製造者名 範囲及び数量 200 g ~ 1 mg 22 個

識別記号

校正項目 協定質量

校正方法 弊社質量校正マニュアルによる(文書番号 MJW-03)

最上位の標準器 特定二次標準器(識別記号/証明書番号:◎/000000, ◎3/000000)

校正に用いた標準器 ワーキングスタンダード(識別記号/証明書番号:C/M000000)

校正結果 2頁のとおり 校正実施条件 2頁のとおり 校正受付日 2019年1月7日 校正実施日 2019年1月7日

校正結果は以上のとおりであることを証明します。

発行日 2019年1月7日

大阪市旭区赤川2丁目10番31号 株式会社 村上衡器製作所

校正証明書発行責任者



- ・この証明書は、計量法第144条(第一項)に基づくものであり、特定標準器(国家標準)にトレーサブルな標準器に より校正した結果を示すものです。認定シンボルは、校正した結果の国家標準へのトレーサビリティの証拠です。 発行機関の書面による承認なしにこの証明書の一部分のみを複製して用いることは禁じられています。
- ・当社は、ISO/IEC 17025:2005 に適合しています。
- ・この証明書は、ILAC(国際試験所認定協力機構)及びAPAC(アジア太平洋認定協力機構)のMRA(相互承認)に 加盟しているIAJapanに認定された校正機関によって発行されています。この校正結果はILAC/APACのMRAを 通じて、国際的に受け入れ可能です。

Japan Calibration Service System

TRADE **⑥** MARK 株式会社 村上衡器製作所

JCSS校正証明書(分銅)

校正結果

公称值	識別記号	EP			
分銅に与えられた 名目上の値	管理のために付され る記号や数字	同一公称値の分銅を識別するための印			

協定質量	拡張不確かさ
一定の協定条件において	協定値の ばらつき を
つり合う参照分銅の質量	特徴づけるパラメータ

『校正結果の有効期限』 という概念はない!

校正の条件

- 協定条件
- 不確かさ条件
- 校正実施条件
- 質量比較器

様式 校1-3

証明書番号 0000000

日十

総数5頁の3頁

公称	値	識別記号	ED	協定質量の偏差	也	左張不確か		最大許容誤差	評価
200	g	A		- 0.019 mg	±	0.088 1	П	± 0.3 mg	適合
100	g	A		- 0,010 mg	\pm	0.045 1	П	\pm 0.16 mg	適合
50	g	A		+ 0.007 mg	\pm	0.029 1		\pm 0.10 mg	適合
20	g	A	1	- 0.007 mg	\pm	0.024 1	П	\pm 0.08 mg	適合
20	g	A	2	+ 0.010 mg	\pm	0.024 1	П	\pm 0.08 mg	適合
10	g	A		+ 0.022 mg	\pm	0.018 1		\pm 0.06 mg	適合
5	g	A		+ 0.009 mg	\pm	0.014 1		\pm 0.05 mg	適合
2	g	A	1	+ 0.009 mg	\pm	0.011 1		\pm 0.04 mg	適合
2	g	A	2	+ 0.009 mg	\pm	0.011 1		± 0.04 mg	適合
1	g	A		+ 0.0059 mg	\pm	0.0084	g	\pm 0.03 mg	適合
500	mg	A		+ 0.0003 mg	\pm	0.0070	g	\pm 0.025 mg	適合
200	mg	A	1 2	+ 0.0011 mg	\pm	0.0056	g	\pm 0.020 mg	適合
200	mg	A	2	- 0.0016 mg	\pm	0,0056	g	\pm 0.020 mg	適合
100	mg	A		- 0.0041 mg	\pm	0.0045	g	\pm 0.016 mg	適合
50	mg	A		- 0.0027 mg	\pm	0.0034	g	\pm 0.012 mg	適合
20	mg	A	1	- 0.0041 mg	\pm	0.0029	g	\pm 0.010 mg	適合
20	mg	A	1 2	- 0.0025 mg	\pm	0.0029	ğ	\pm 0.010 mg	適合
10	mg	A		- 0,0016 mg	\pm	0.0022	g	\pm 0.008 mg	適合
5	mg	A		+ 0.0005 mg	\pm	0.0017	g	\pm 0.006 mg	適合
2	mg	A	1	- 0.0014 mg	\pm	0.0017	g	\pm 0.006 mg	適合
2	mg	A	2	+ 0.0014 mg	\pm	0.0017	g	\pm 0.006 mg	適合
1	mg	A		+ 0.0007 mg	\pm	0.0017	g	± 0.006 mg	適合

備考 1) 適合性評価の基準は、JIS B 7609:2008 6.2項, 6.3項に示されている。 適合性評価は、次の式を同時に満たしているか評価を行った。

|拡張不確かさ|≤|最大許容誤差|/3 |協定質量の偏差 | + |拡張不確かさ | ≤ |最大許容誤差 |

2) 拡張不確かさは信頼の水準約 95 % に相当し、包含係数 k は2

注釈 [協定質量の偏差]及び[拡張不確かさ]の表記小数点以下桁 点以下桁数より大きい場合、不足する桁数を 0 として考え適合性の

『誤差]の表記小数

校正結果に基づいた JIS B7609『分銅』への 質量の 適合性評価

TRADE O MARK 株式会社 村上衡器製作所

JCSS校正証明書の連続性









時間の経過

前回の校正

今回の校正

●今回の校正結果を前回の結果と比較して

管理限界を超える変化がなければ、前回~今回の期間 (過去)の分銅管理(⇒はかり管理・製品の計量) に 問題がないことが確認できる。 ●今回の校正結果で

未来の 分銅管理・はかり管理・製品の計量の安全性や結果の保証はできない。



- JCSS校正証明書は、校正実施日の計測結果(不確かさ付き)のみを示しており、 過去の計量管理の確認はできるが、未来の保証にはならない。⇒ "有効期限"の記載がない理由
- 校正の結果、分銅の質量調整を実施する場合、管理上は調整以前の分銅とは別物の分銅となり、 校正証明書の連続性が一旦 途切れる。

そのため、質量調整前に校正(または、簡易質量検査)を実施して、エビデンスを取得しておく場合もある。

本日の講演

大阪の中小企業である弊社が JCSS校正証明書 発行業務を通じ、

顧客企業様と共に品質管理・計量管理の分野で どの様に発展してきたか、をご紹介します。

JCSS認定取得の意義

- 弊社の概要
- キログラムの定義改定
- 分銅製造とトレーサビリティ

校正証明書 発行業務の実態

- 分銅校正と品質管理
- 証明書発行件数の変遷

顧客企業との共創と今後の展望

- 顧客ニーズへの対応
- 顧客企業との連携

「分銅」による「はかり」管理

「分銅」で「はかり」を管理する理由

- 「分銅」が質量の計量標準である。
- 「はかり」は質量の計測器であり、はかりの指示値は絶対ではない。
- 「分銅」も「はかり」も使用中変化(経年変化)を起こすが、 「分銅」の変化は「はかり」の変化に対して比較的小さい。

「分銅」による「はかり」管理の注意点

- ① 国家標準にトレーサブルな計量標準による管理体系を構築する。
- ② 「はかり」の仕様 や 「計量」の要求精度に見合った分銅を選ぶ。
- ③ 「分銅」自体の質量管理を確実に実施する。



顧客企業との共創と今後の展望

注意点① 『国家標準にトレーサブルな計量標準による管理体系』 とは?

「はかり」を検査する「分銅」が国家標準分銅と繋がり(トレーサビリティ)があること。



この管理体系を構築することで、

- 品質マネジメントシステム(ISO9001, IATF16949)
- 計測マネジメントシステム(ISO10012)
- 医薬品、医薬品原料の取引、認可(GLP,GMP対応)
- 日本薬局方 (2024.6.28 告示 第十八改正 第二追補 〈G1-7-182〉 で 分銅のSIへのトレーサビリティの確保が追加)
- 食品製造の安全管理(HACCP)
- 食品衛生法、健康増進法

などへの対応が可能になります。

顧客企業との共創と今後の展望

ISO 9001 とは・・・ 品質マネジメントシステム関係の 国際標準化機構 (ISO) による国際規格

『品質保証を含む 顧客満足の向上を目指すための規格』

JIS Q9001:2015 (ISO 9001:2015)

7.1.5項 監視及び測定のための資源 (抜粋)

7.1.5.2 測定のトレーサビリティ

測定のトレーサビリティが要求事項となっている場合、 又は組織がそれを測定結果の妥当性に信頼を与えるため の不可欠な要素とみなす場合には、測定機器は、次の事 項を満たさなければならない。

a) 定められた間隔で、又は使用前に、国際計量標準 又は 国家計量標準対してトレーサブルである計量標準に照ら して校正若しくは検証、又は その両方を行う。 そのような標準が存在しない場合には、校正又は検証に 用いたよりどころを、文書化した情報として保持する。

校正周期と管理限界値

「分銅」の質量状態を把握するための 分銅管理の中で最も重要な要素



管理コストと管理リスクの兼ね合いは、 各ユーザーの現場における計量管理の重要性に依存します。

校正履歴から得られる実績値を基に、校正周期と管理限界値の最適化をすることが必要です。

よくある質問

Q1. JCSS校正結果をもとに、分銅の管理や使用へのアドバイスが欲しい。

Q2. JCSS校正証明書に有効期限がないのは理解できるが、次回校正時期の目安が欲しい。



協定値の変化実績と 設定した校正周期・管理限界値が 適正かを常に検証してください

業種別の校正周期の傾向

製薬業 : 1年

食品業・自動車関連・その他 : 3年

管理限界値の傾向

使用している分銅の精度等級に対する 最大許容誤差

一般ユーザー様の分銅管理

ユーザー:製薬業 A

2015.09.15

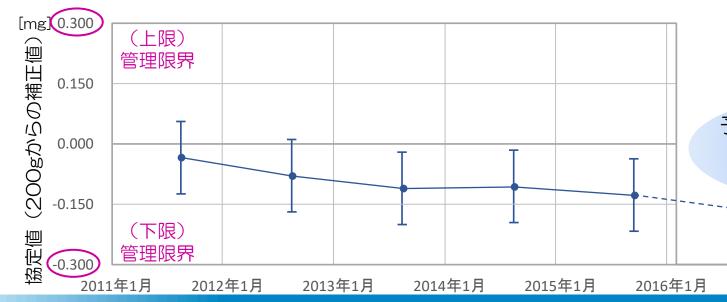
分 銅 : E2級 200g (最大許容誤差: ±0.3mg)

校正年月日	協定質量	拡張不確かさ
2011.08.17	200g — 0.034	mg ± 0.090mg
2012.08.30	200g — 0.080	mg ± 0.090mg
2013.08.26	200g — 0.111	mg ± 0.090mg
2014.08.26	200g — 0.107	mg ± 0.090mg

 $200g - 0.128 mg \pm 0.090 mg$

弊社では、 JCSS校正証明書に参考資料として これらの表・グラフを記載した 『校正履歴 協定値の変化』を添付





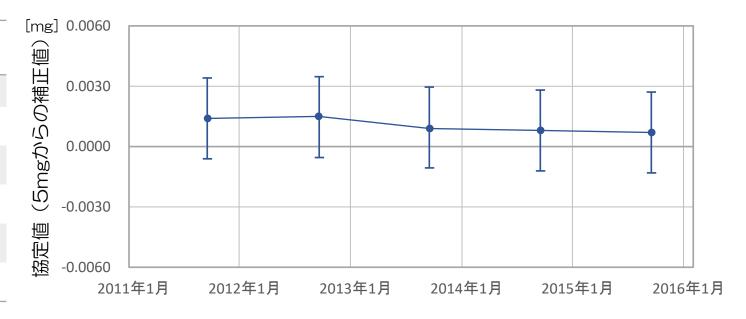
予防処置

分銅の保管方法や 取扱いを見直す

5~6年後に 管理限界値を 超えてしまう懸念

一般ユーザー様の分銅管理

ユーザー:製薬業 B 分 銅 :E2級 5mg(最大許容誤差:±0.006mg)		
校正年月日	協定質量	拡張不確かさ
2011.09.12	5mg +0.0014	mg ± 0.0020mg
2012.09.20	5mg +0.0015	mg ± 0.0020mg
2013.09.25	5mg +0.0009	mg ± 0.0020mg
2014.09.19	5mg +0.0008	mg ± 0.0020mg
2015.09.15	5mg +0.0007	mg ± 0.0020mg



校正周期を伸ばして(リスク 微増) コスト削減ができる可能性あり

まとめ

質量分野の標準である『分銅』の製造工程と 質量標準トレーサビリティ体系との関連を紹介しました。

品質管理における分銅校正の必要性、 JCSS校正証明書発行件数の変遷などを紹介しました。

JCSS校正証明書を必要とする顧客企業からの要望、 それに対する弊社の対応やアドバイスなどを紹介しました。

質量標準分銅のメーカー・JCSS校正事業者として、 今後も有益な情報を提供していきたいと思います。



ご清聴、ありがとうございました

株式会社 村上衡器製作所 ~ since 1906 ~

https://www.murakami-koki.co.jp



トップページ



会社紹介動画